

④外国人が住みたくなる環境の整備

⇒留学や研修など外国人市民の増加が予想される中、受入れにあたって、安全・安心な生活環境を提供するための基盤整備

事業名等	概要	KPI（平成31年度）	KPI実績	
多文化共生推進事業 【企画調整局】 【B】	多様性が力となる多文化共生の推進のため、外国人市民の生活支援事業（行政通訳派遣等）や多文化共生意識啓発事業等を行う。	市民の「多文化共生」という言葉の認知度： 43%（H25年度）⇒ 50%（H31年度）	H27	43.8%
			H28	49.9%
		行政・医療通訳の派遣件数 108件（H26年度）⇒ 200件（H31年度）	H27	74件
			H28	114件
多文化共生推進に伴うコーディネート支援 【企画調整局】 【C】	外国人市民への生活支援や、市民に対する国際理解の啓発、また市民の国際交流活動の支援を行い、地域における多文化共生社会の実現を推進する。（公益財団法人北九州国際交流協会への支援）	外国人市民の生活の向上（生活の困難度が軽減された状態＝とても暮らしやすい、まあまあ暮らしやすい）： 79.7%（H26年度）⇒ 80%（H31年度）	H27	—
			H28	— ※KPIの根拠となる外国人市民を対象とした調査は5年毎に実施しており、次回はH31年度に実施予定。
		外国人向け無料一般相談人数： 606人（H26年度）⇒ 1,200人（H31年度）	H27	592人
			H28	832人

⑤都心部における交流人口増に向けた取組

⇒都心部における集客交流の推進および「北九州スタジアム」の活用

事業名等	概要	KPI（平成31年度）	KPI実績	
都心集客アクションプラン推進事業 【産業経済局】 【A】	「北九州スタジアム」のオープンを契機として、JR小倉駅新幹線口エリアのさらなる集客促進を行うとともに、都心部への回遊性向上に取り組む。	新幹線口エリアの集客数： 270万人（H25年度）⇒ 300万人（H31年度）	H27	約337万人
			H28	約344万人

「北九州スタジアム」を核としたにぎわいづくり 【産業経済局】【市民文化スポーツ局】 【A】	「北九州スタジアム」オープン後も、大規模国際大会やJリーグ、ラグビートップリーグ等の試合に加え、様々なスポーツ利用やスタジアムを活用したイベント等を開催し、街ににぎわいを創出する。	スタジアム集客数： 21 万人以上／年	H27	—
			H28	実績：35,838 人 (平成 29 年 2 月オープン)

⇒ポップカルチャー（マンガ・アニメなど）、ファッションをツールとした、街に新たな集客誘引のムーブメントを起こすイベント、仕掛け、情報発信の強化

事業名等	概要	KPI（平成31年度）	KPI実績	
漫画ミュージアム連携交流事業 【市民文化スポーツ局】 【C】	漫画ミュージアムの集客とあわせて、小倉駅周辺地区のにぎわいづくりを図るため、小倉駅新幹線口地区にて開催予定の大規模イベントや、ギラヴァンツ北九州等と連携したイベント等を実施する。	漫画ミュージアム年間入館者数： 10 万人（H26 年度）⇒ 50 万人以上（H27～31 年度）	H27	83,161 人
			H28	累計 183,927 人
TGC北九州誘致・開催事業 【産業経済局】 【A】	若い女性のファッションへの関心、消費マインドの喚起、市外からの集客増等を目的として、国内外で認知度が高い「東京ガールズコレクション」とコラボレーションしたファッションイベントを開催する。	集客数：10,000 人／回	H27	延べ約 11,800 人
			H28	延べ約 12,900 人
COOL KITAKYUSHU推進事業 【産業経済局】 【C】	・ポップカルチャーの拠点化を図るためにあるある City などと連携した大規模イベント等の実施 ・公共空間の活用によるオープンカフェやオープンマーケットの実施 など	集客数：170,000 人／年	H27	約 170,000 人
			H28	約 120,000 人

⑥外国人観光客倍増など市外からの観光客増に向けた取組

⇒来北外国人観光客数、旅行消費額の倍増のための取組（インバウンド対策）

事業名等	概要	KPI（平成31年度）	KPI実績	
東アジア観光客誘致推進事業等 【産業経済局】 【A】	東アジア諸国をはじめとする海外からの観光客を誘致するため、旅行社へのセールス・国際観光展への出展などの海外プロモーション活動や、Wi-Fiの整備、免税店の周知・拡大などの外国人の受入環境の整備を行う。	来北外国人観光客数： 13.2万人（H25年次）⇒ 40万人（H31年次）	H27	25.2万人
			H28	34.9万人
北九州トレッキングコース整備事業 【建設局】 【A】	平尾台、皿倉、河内などの美しい自然や風景を活かし、国外等からのトレッキング観光客誘致を目指した取組を検討する。			

⇒広域からの集客を狙った新たな観光拠点施設等の整備

事業名等	概要	KPI（平成31年度）	KPI実績	
小倉城周辺魅力向上事業（地方創生拠点整備） 【企画調整局】 【B】	小倉の歴史・文化を生かした居心地の良いおもてなし空間を創出するため、小倉城の物販等の施設整備や天守閣内の展示リニューアルを行う。これにより、小倉城エリアにおけるにぎわいの創出や観光客の回遊性向上、滞在時間の延長による消費の拡大などを図る。	小倉城来場者数： 15.3万人（H27年度）⇒ 19.1万人（H31年度）	H27	15.3万人
			H28	18.6万人
旧安川邸利活用事業（地方創生拠点整備） 【建設局】 ※数値目標対象外	戸畑区の夜宮公園に隣接している安川家の旧邸宅とその周辺を市の新たな観光拠点として改修・整備するため、意匠、耐震調査や建築、駐車場、外構工事を行う。また、整備後は、民間活力を活用した喫茶や飲食の提供等により、世界遺産等との周遊性を高めるとともに、インバウンドの取り込みを図る。	旧安川邸施設年間利用者数：3万人（H31年度）	H27	—
			H28	なし （平成31年度供用開始予定）

⇒国内外からの観光客増に向けた情報発信の強化

事業名等	概要	K P I (平成31年度)	K P I 実績	
観光プロモーション推進事業等 【産業経済局】 【A】	旅行会社へのセールス、観光キャンペーンなどによるプロモーションの実施や観光ウェブサイトを活用した継続的な情報発信を行い、本市の観光地としての認知度の向上とさらなる観光客の誘客を図る。また、本市公営競技施設を観光資源として PR することを検討する。	観光客数： 2,242 万人 (H23 年次) ⇒ 2,460 万人 (H31 年次)	H27	2571.4 万人
			H28	2543.3 万人
		うち宿泊者数： 119 万人 (H23 年次) ⇒ 130 万人 (H31 年次)	H27	170 万人
			H28	177.5 万人

⇒大規模な国際会議の誘致、M I C E の振興

事業名等	概要	K P I (平成31年度)	K P I 実績	
MICE 誘致推進強化事業 (地方創生先行型) 【産業経済局】 【A】	国からの「グローバルMICE強化都市」選定を契機に、国際会議や海外からのインセンティブツアーなど MICE 誘致を強化するため、大きな誘因となる MICE 開催助成金制度を拡充して実施し、「国際 MICE 都市 北九州」確立に向けた取組みを推進する。	MICE 開催件数： (助成金活用) 105 件 (H26 年度) ⇒ 118 件 (H31 年度)	H27	134 件
			H28	139 件
		経済効果： 約 18 億円 (H26 年度) ⇒ 約 22 億円 (H31 年度)	H27	25.9 億円
			H28	24.6 億円
北九州マラソン開催事業 【市民文化スポーツ局】 ※数値目標対象外	1 万人規模の北九州マラソンの開催に併せ、全国から参加するランナー等に北九州市の食でおもてなしするとともに、コース沿いに位置する観光資源を通して本市の魅力を PR する。	インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング：1 位	H27	5 位
			H28	9 位
大規模国際大会等誘致事業 【市民文化スポーツ局】 【A】	戦略的な誘致プロモーションの展開や、官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動、及びスポーツ施設の備品整備により、大規模国際大会のキャンプ地誘致等を行い、本市の PR やシビックプライドの醸成、トップクラスのアスリート等とのふれあいを通じた人材育成を図る。	国際大会や全国大会等の誘致：15 件以上 (H27～31 年度)	H27	4 件
			H28	累計 8 件

⇒世界的遺産を活かしたまちづくり

事業名等	概要	KPI（平成31年度）	KPI実績	
世界遺産魅力 発進事業 【企画調整局】 【市民文化スポーツ局】 【産業経済局】 【C】	平成27年7月に世界遺産登録された官営八幡製鐵所関連施設について、旧本事務所眺望スペースの運営等を通じた理解増進・情報発信活動を実施する。また、来訪者受入体制強化のため、資産紹介映像制作や説明員の充実を図るとともに、市外からの観光客誘致のための、ツール制作、周遊観光ルート構築を行い、ローカル・ブランディングの推進を図る。 平成28年11月（現地時間）にユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」に含まれる戸畑祇園大山笠行事について、有形と無形の2つの世界的遺産のある街として、国内外へ積極的に発信し、にぎわい創出に向けた取組を進める。	旧本事務所眺望スペースの来場者数：5.6万人/年（H27年度） ⇒20万人（H28～31年度）	H27	5.6万人
			H28	2.7万人
		戸畑祇園大山笠行事（3日間）の来場者数： 23万人（H28） ⇒毎年23万人以上（H29～31）	H27	23万人
			H28	23万人

⇒国内外クルーズ客船の誘致活動及び、寄港時の賑わい創出

事業名等	概要	KPI（平成31年度）	KPI実績	
クルーズ船の誘致 【港湾空港局】 【A】	受入態勢の強化を図るとともに、国内外のコンベンションへの出展やキーパーソンの招へい、代理店や船社への情報提供によるクルーズ船寄港の促進及び客船寄港時におけるおもてなしイベント等を展開する。あわせて、中国人観光客等を対象とした周遊ルートの開発を行う。	年間寄港回数： 1～5回（H22～26年度）⇒ 20回（H32年度）	H27	4回
			H28	12回

⇒公園や道路などの公共空間を利用した賑わいの創出

事業名等	概要	K P I (平成31年度)	K P I 実績	
勝山公園民間 活力導入推進 事業 【建設局】 ※数値目標対 象外	小倉城等の観光拠点施設を設置している勝山公園において、民間活力を活用したイベント開催やサービス施設の整備による公共空間のにぎわいを創出する。	勝山公園における土日祝日のイベント開催率 40%以上	H27	—
			H28	なし (H29.4.1～指定管理開始)
北九州市国家 戦略道路占用 事業 【建設局】 【A】	国家戦略特別区域法上の国家戦略道路占用事業を実施する北九州市内の地域団体が、道路空間を活用したイベント等を開催し、MICE の魅力向上及びまちの賑わい創出を図ることで国内外の人の交流やインバウンドの増加を図る。	年間の事業実施日数： 0 日 (H27 年度) ⇒ 100 日 (H31 年度)	H27	—
			H28	219 日

Ⅲ若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

H28 年度末時点 KPI 達成状況	120%以上 【A】	100～119% 【B】	70～99% 【C】	69%以下 【D】
事業数	7事業	13事業	5事業	2事業

①女性の活躍日本一を目指した女性活躍施策の充実

⇒就業・就業継続・キャリアアップ・創業など女性の活躍を総合的に支援するワンストップ窓口の設置

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
ウーマンワークカフェ北九州運営事業 【総務局】 【A】	国・県等の関係機関とも連携し、働く女性を応援するためのトータルサポート拠点を整備し、女性の就業・キャリアアップ・再就職・創業等をワンストップで支援する。	センター利用者数： 年間4,000人	H27	－（開所前のため）
			H28	3,447人

⇒女性の就業促進及び女性管理職、創業者など働く女性のキャリア形成・事業支援

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
ものづくり中小企業・女性職場環境改善支援事業 【産業経済局】 ※数値目標対象外	人手不足が深刻な中小製造業・建設業において、女性の人材確保や定着につながることを目的に、職場環境の改善に必要な経費の一部を助成する。	助成金を活用する企業数： 累計18社（H29～31年度）	H27	－
			H28	－
女性管理職ネットワーク形成事業 【総務局】 【A】	研修・ワークショップ等を通じ女性管理職のネットワーク化・ロールモデル化等を進め、市全体で女性のキャリア形成を支援する。	研修等に女性管理職を参加させた企業数： 100社（H27～31年度）	H27	20社
			H28	累計50社

開業支援資金 融資(特別枠) 【産業経済局】 【A】	開業時や開業後5年未満の方の事業展開に必要な資金を融資する。(H27年度から女性・若者等の創業を支援する「特別枠」を創設。28年度からは信用保証料の利用者負担ゼロを実施)	女性への融資実績： 14件(H26年度)⇒ 75件以上(H27～31年度)	H27	20件
			H28	累計41件
女性の創業支援【再掲】 【総務局】 【A】	ウーマンワークカフェ北九州では、女性の先輩起業家などによる相談窓口を開設し、初期段階の創業を支援する。 また、民間企業等が中心となって設立する「北九州女性創業支援 ひなの会」とも連携し、女性が創業しやすい環境づくりを推進する。			

②働く人・企業がともに成長するダイバーシティ経営モデルの構築

⇒企業風土改革や従業員・管理職の意識改革促進

事業名等	概要	KPI(平成31年度) ※KPI=重要業績評価指標	KPI実績	
ダイバーシティ (※)人材養成 事業 【総務局】 【B】	企業の女性従業員及び管理監督者等を対象に各種セミナーを実施する(リーダーシップ、イクボスマネジメント、介護制度等)。	研修等に従業員を参加させた 企業数： 8社(H26年度)⇒ 490社(H27～31年度)	H27	123社
			H28	累計229社
企業マネジメント改革支援 事業 【総務局】 【C】	市役所及び市内企業間での成功事例の研究会・情報発信や、個別企業に対する経営コンサルタント等の派遣を行う。	研究会・企業への助言等： 25件(H26年度)⇒ 40件(H31年度)	H27	36件
			H28	33件

※ ダイバーシティ：多様な人材(性別、年齢など)を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、ビジネスや社会環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、組織と個人双方の成長につなげようとする考え方。

⇒関係機関と連携・一体化した市内企業トータル支援パッケージの開発

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I =重要業績評価指標	K P I 実績	
ワンストップ 企業サポート 事業 【総務局】 【A】	女性活躍・ワーク・ライフ・ バランス(※)に係る関係機関 の支援メニューを一元的に情 報提供。各企業の事情に応じ た助言を行うとともに、企業 の声を踏まえ制度を改善・充 実する。	行動宣言等登録・届出企業： 累計 597 社 (H26 年度) ⇒ 累計 800 社 (H31 年度)	H27	697 社
			H28	累計 929 社

※ ワーク・ライフ・バランス：一人ひとりが自らの仕事上の責任を積極的に果たしつつ、子育て、介護、地域活動、自己啓発などの活動も充実させることで、互いの好循環・相乗効果を図るもの。

⇒女性活躍、ワーク・ライフ・バランス取組企業の拡大

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I =重要業績評価指標	K P I 実績	
ダイバーシテ ィ行動宣言普 及・拡大事業 【総務局】 【A】	女性活躍・ワーク・ライフ・ バランス関係の各種登録・届 出制度をPR。登録等の働きか けを行うとともに、企業の声 を踏まえ制度を改善・充実す る。	行動宣言等登録・届出企業： 累計 597 社 (H26 年度) ⇒ 累計 800 社 (H31 年度)	H27	697 社
			H28	累計 929 社
女性輝き！推 進事業（地方 創生先行型） 【総務局】 【A】	「女性の力」を企業の経営戦 略に活かすための企業向けシ ンポジウムの開催や、 女性活躍取組企業によるワー キングチームの勉強会等を通 じて、市内における女性活躍 の推進を図る。			

⇒市内の働く人・企業のニーズにきめ細かに応える両立サポートの充実

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I =重要業績評価指標	K P I 実績	
両立支援ビジ ネス展開事業 【総務局】 【C】	両立支援関連ビジネス（託児、 家事代行、テレワーク等）に 関する研究会・試行実験や導 入企業への助言等を行う。	研究会・企業への助言等： 15 件 (H31 年度)	H27	3 件
			H28	累計 5 件

テレワーク推進事業（地方創生先行型） 【総務局】 【C】	ICT を活用した、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方（職員の在宅勤務、出張・外出時のモバイル勤務等）について、調査研究、実証実験を行う。			
--	--	--	--	--

③結婚・妊娠・出産・子育て・教育まで一貫した支援

⇒「政令市子育て支援NO. 1」の積極的PR

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
「子育てしやすいまち北九州」の戦略的広報 【子ども家庭局】 ※数値目標対象外	首都圏などに向けて、本市の子育て環境の魅力を住宅や通勤環境等の情報とともにパッケージ化し、戦略的に広報・PRに取り組む。	首都圏などにおける「子育てしやすいまち北九州」の認知度：20%（H31年度）	H27	—
			H28	— ※H31年度に測定予定
ひとり親家庭の自立応援事業 【子ども家庭局】 【B】	ひとり親家庭の経済的な自立を支援するため、資格取得のために支給している「高等職業訓練促進給付金」に加えて、市独自の給付金を扶養児童数に応じて加算する。	支給件数： 113件（H26年度）⇒ 5年間で10%増加	H27	109件
			H28	126件

地域コミュニティの空家を活用した多世代交流サロンの運営 【子ども家庭局】 【B】	商店街の空き店舗やコミュニティにおける空家など地域のコミュニティスペースを活用し、地域のシルバーやママ達が独自に設置・運営するサロンに対し、必要な支援を行う。具体的には、シルバー世代の経験を活かした軽食などの食の提供のほか子育てに関する相談を受け付けるなど、子どもを含めた多世代が集う居場所づくりを推進する。	子育てが地域の人に支えられていると感じる割合 <就学前児童> 44.3% (H25年度) ⇒ 増加 (H31年度) <小学生> 59.9% (H25年度) ⇒ 増加 (H31年度)	H27	<就学前児童> 49.0% <小学生> 64.2%
			H28	<就学前児童> 47.6% <小学生> 61.1%
多子世帯向け市営住宅への優先入居 【建築都市局】 【B】	市営住宅の定期募集において、多子世帯に対し一般抽選枠とは別に募集枠を確保する優先的な取扱いを行い、多子世帯の居住安定確保を図る。	多子世帯向け募集戸数： 7戸 (H26年度) ⇒ 60戸 (H31年度)	H27	50戸
			H28	45戸

⇒民間と連携した出会いの機会の場の提供

事業名等	概要	KPI (平成31年度) ※KPI = 重要業績評価指標	KPI実績	
出会いの場の機会創出に向けた支援 【子ども家庭局】 【B】	結婚を希望する若い男女に、少しでも多くの出会いの場を提供するため、NPO 法人が開設した「北九州出会いサポートセンター」を支援するなど、本市の周辺都市も取り込んだ広域的な結婚支援活動を促進する。 ・出会いサポート事業 ・婚活・食活～出会いと地産地消の推進 ・ランドマーク（観光施設）ウェディングの開催	成婚数：100組／4年	H27	—
			H28	15組
		参加者数：200人／年	H27	88人
			H28	224人
実施回数：6回／年	H27	—		
	H28	1回		

⇒結婚を希望する若者に対するきめ細かなサポートの実施

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I実績	
結婚や出産に対する意識醸成事業 【子ども家庭局】 【C】	結婚・出産に関するセミナー等やコミュニケーションスキルアップ研修等を実施し、結婚や出産に対する意識醸成を図る。あわせて、少子化の原因の一つとされている晩婚化の減少に努める。	セミナー・講座等実施回数： 50回（H27～31年度）	H27	5回
			H28	累計16回
新婚世帯向け市営住宅への優先入居 【建築都市局】 【B】	市営住宅の定期募集において、新婚世帯に対し一般抽選枠とは別に募集枠を確保する優先的な取扱いを行い、新婚世帯の居住安定確保を図る。	新婚世帯向け募集戸数 97戸（H26年度）⇒ 110戸（H31年度）	H27	126戸
			H28	116戸
新婚・子育て世帯入居支援（北九州市住宅供給公社） 【建築都市局】 【D】	新婚世帯や子育て世帯の人に対し、市住宅供給公社の一般賃貸住宅の入居促進キャンペーン中に入居すれば、家賃3ヶ月分が無料となる生活応援制度を実施し、子育て世帯等の負担の軽減を図る。	入居促進キャンペーン中の新婚・子育て世帯の申込件数 23件（H26年度）⇒ 150件（H27～31年度）	H27	21件
			H28	累計33件

⇒正規雇用の増加を進める企業への支援

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I実績	
若年者正規雇用創造チャレンジ！事業（地方創生先行型） 【産業経済局】 【D】	市内企業の新分野進出等に伴い、若年求職者（45歳未満）を正規雇用した場合、または非正規雇用から正規雇用へ転換した場合に当該人件費の一部を助成し、若年者の正規雇用を促進する。	新規雇用者： 15人（H26年度）⇒ 100人（H27～31年度）	H27	10人
			H28	累計21人 ※H28年度採択で終了。

⇒子ども・子育て新制度のもと、子育て世代包括支援センターの活用、保育、地域の
 子育て支援の量の拡大や質の向上による待機児童対策の推進等

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI=重要業績評価指標	KPI実績
施設型給付および地域型給付 【子ども家庭局】 【B】	認定こども園、幼稚園、保育所を対象とした財政支援、市町村の認可事業である小規模保育、家庭的保育、事業所内保育等を対象とした財政支援を行う。	待機児童の解消 <保育所待機児童数 : 4月（年度当初）> 0人（H25年度）⇒ 0人（H30・31年度） <保育所待機児童数 : 10月（年度途中）> 220人（H25年度）⇒ 0人（H30・31年度） <放課後児童クラブ待機児童数（年度当初）> 0人（H25年度）⇒ 0人（H30・31年度）	H27 待機児童の解消 <保育所待機児童数：4月（年度当初）> 0人 <保育所待機児童数：10月（年度途中）> 139人 <放課後児童クラブ待機児童数> > 0人
一時預かり事業 【子ども家庭局】 【B】	子ども・子育て支援法に基づく「地域子ども・子育て支援事業」として、私立幼稚園等が主に在籍する園児を対象に行う「一時預かり事業」に要する費用の一部を助成する。		H28 待機児童の解消 <保育所待機児童数：4月（年度当初）> 0人 <保育所待機児童数：10月（年度途中）> 148人 <放課後児童クラブ待機児童数> > 0人
放課後児童クラブ運営 【子ども家庭局】 【B】	子ども・子育て支援新制度の施行に伴う児童の集団規模の見直しや指導員配置の充実により放課後児童クラブの質の向上を図る。		
保育士・保育所支援センター事業 【子ども家庭局】 【B】	保育士・保育所支援センターにおいて、潜在保育士の就職や保育所における潜在保育士の活用支援等を行う。		
予備保育士雇用費補助 【子ども家庭局】 【B】	4～12月において、基準保育士数を上回って保育士を雇用した保育所に対し、人件費の一部を補助し、保育士雇用を促進する。		

⇒第3子以降の保育料・保育所入所の優遇や、出産前・後ヘルパー派遣など
 プラス1ベビーの希望が叶う環境の整備・検討

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I =重要業績評価指標	K P I 実績	
産前・産後ケアサポート 【子ども家庭局】 【B】	妊娠期から子育て期にわたる様々なニーズに対するワンストップの相談窓口として、切れ目ない支援を実施している、区役所の「健康相談コーナー」及び「子ども・家庭相談コーナー」を「子育て世代包括支援センター」と位置づけ、支援のさらなる強化を図る。また、子どもを持ちたいと思う方が、一人でも多くの子どもが持てるよう、第3子以降を出産する家庭を優遇する等、世帯の子どもの数に応じた支援を検討する。	子育てに悩みや不安を感じる人の割合 <就学前児童> 44.7% (H25年度) ⇒ 減少 (H31年度)	H27	—
ペリネイタルビジット(※)事業 【子ども家庭局】 【B】	市医師会において、平成27年度から実施している「ペリネイタルビジット事業」を本市の事業として位置づけ、産科医から小児科医への紹介料や、小児科医による相談料を市が負担するとともに、産科医・小児科医と保健師等行政職員が連携しながら妊産婦等の相談に対応するなど、事業の利用促進を図る。			
特定不妊治療費助成事業 【子ども家庭局】 【C】	不妊治療のうち、体外受精及び顕微授精(以下「特定不妊治療」)は1回の治療費が高額で、経済的負担が重く十分な治療を受けることができない方も少なくないことから、特定不妊治療について、平成28年3月申請分より初回の助成額を更に15万円まで助成(15万円→30万円に拡充)し、男性不妊治療の助成を15万円まで拡充する。	助成件数： 879件(H26年度) ⇒ 5年間で10%増加 (H31年度 967件)	H27	783件
			H28	776件

※ ペリネイタルビジット：産婦人科の医師の紹介で、妊婦(できるだけ夫婦で)が赤ちゃんの誕生前、または生まれて間もなく(概ね妊娠28週～産後2ヶ月)小児科の医師と出会うことにより産後の育児のイメージができ、具体的な育児のアドバイスを得ること等ができるもの。

⇒子どもたちの確かな学力や体力、豊かな心を育む教育環境の整備

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I 実績	
子どもの学力、体力の向上、豊かな心を育む施策の充実 【教育委員会】 【A】	一人ひとりの学力を継続的に把握・分析する本市独自の学力調査や、放課後等を活用して学習機会を提供する「子どもひまわり学習塾」、子どもの読書活動の推進などの学力向上に向けた取組や、本市独自のダンス「北九州市キッズダンス」「ダンスフォーザフューチャー」などを活用した体力向上のための取組を行うとともに、伝統文化や異年齢・地域交流など豊かな体験を通して、自己の生き方についての考えを深める道徳教育、郷土への愛着を深める取組み等、子どもの学力、体力の向上、豊かな心を育む施策をさらに進める。	全国学力・学習状況調査結果 平均正答率全国比	H27	小6:96% 中3:95%
		小6:95.7% (H26年度) ⇒ 100% (H30年度) 中3:93.8% (H26年度) ⇒ 100% (H30年度)	H28	小6:96% 中3:96%
		全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果が全国平均と同等以上の項目の割合 小5男子:12.5% (H26年度) ⇒100% (H30年度)	H27	小5男子:12.5% 小5女子:0.0% 中2男子:44.4% 中2女子:11.1%
		小5女子:0.0% (H26年度) ⇒100% (H30年度) 中2男子:55.5% (H26年度) ⇒100% (H30年度) 中2女子:22.2% (H26年度) ⇒100% (H30年度)	H28	小5男子:37.5% 小5女子:25.0% 中2男子:100.0% 中2女子:55.6%

IV時代に合った魅力的な都市をつくる

H28 年度末時点 KPI 達成状況	120%以上 【A】	100～119% 【B】	70～99% 【C】	69%以下 【D】
事業数	7事業	14事業	6事業	6事業

①現実とイメージのギャップの解消を目指した日本トップクラスの安全・安心なまちづくり

⇒安全・安心な現実を全国に知ってもらうべく、PR作戦を展開及び安全・安心に対するの市民意識を高めるための取組の推進

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業 【市民文化スポーツ局】 【B】	防犯活動の参加拡大や刑法犯認知件数の減少を図り、行動計画の目標を達成するため、市民、事業者、学生などの防犯意識の向上に取り組み、「見守りの目」を増やす自主防犯活動の活性化を推進する。	防犯パトロール活動への参加者数： 10,000人（H26年度）⇒ 20,000人以上（H31年度）	H27	14,170人
			H28	16,515人
「全国学生安全・安心ボランティアサミット北九州」の開催事業（地方創生先行型） 事業終了 【市民文化スポーツ局】 ※数値目標対象外	市内で活動する学生ボランティアが一堂に会する連絡会議を開催するとともに、市内外の学生ボランティアが交流を深める「全国学生安全・安心ボランティアサミット」を本市で開催した。今後は、市内の学生ボランティア連絡会議を支援しながら、市内の学生による防犯ボランティア活動を通じて、安全なまちのイメージを発信し都市イメージの向上を図る。	「安全・安心なまち北九州市」を波及させる。（参加20団体×各団体構成員平均75人＝1,500人）： 北九州市に対するイメージが良くなった参加者の割合： 75%以上（H27年度） 実績：96%	H27	参加24団体、25大学、団体構成員総数1,670人
			H28	—
			H27	96%
			H28	—

⇒安全・安心を高める防犯環境の整備

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I 実績	
市民一斉夜間の安全・安心パトロール事業（地方創生先行型） 【市民文化スポーツ局】 【C】	全ての小学校区で同日・同時刻に一斉に安全・安心のためのパトロール活動を実施するとともに、世界記録への挑戦を視野に入れた取り組みを推進する。	パトロール参加者数： 12,000人（H26年度）⇒ 13,000人（H31年度）	H27	14,300人
			H28	12,300人

⇒地域の見守り活動の強化や自治会加入率の増加をめざした取組

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I 実績	
共同住宅における自治会加入促進支援事業 【市民文化スポーツ局】 【C】	マンション住民の自治会加入の促進を図るため、自治会にマンション管理士やまちづくりコンサルタントを派遣し、規約の整備や活動への助言などを行う。	働きかけ施設数： 35施設（H27～31年度） （毎年度・各区1施設）	H27	2施設
			H28	累計10施設
“ようこそ北九州市に”転入者ウェルカムパスポート事業（地方創生先行型） 【市民文化スポーツ局】 【D】	自治会・町内会に加入した市外からの転入者等に対し、自治会が市立文化施設（自然史・歴史博物館など5施設）に入場できるパスポートを配付するなどし、自治会活動の更なる活発化を図る。	パスポートを利用して施設を訪れた人の数： 毎年4,500人	H27	18人
			H28	68人

②アジアに発信！文化芸術の街・北九州の取組

⇒フィルム・コミッションの活動を推進し、「映画の街・北九州」を発信するとともに、海外作品の誘致に取り組み、世界に向けた都市ブランドを構築

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
海外作品誘致・支援事業（地方創生先行型） 【市民文化スポーツ局】 【A】	本市の魅力在海外に発信し、インバウンドの増加につなげるため、海外の映画、テレビドラマの撮影誘致に積極的に取組むとともに、撮影支援、完成記念イベントによるPRまで、切れ目のない支援に取り組む。	海外相手国へのプロモート訪問（プレゼン、PR）件数：50件（H27～31年度）	H27	10件
			H28	累計29件
		来北による撮影・ロケハン件数：20件（H27～31年度）	H27	6件
			H28	累計13件

⇒子どもたちや若者が、学校や地域等において、文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することが出来る環境（アウトリーチ等）を整備

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
教育普及活動（アウトリーチ）事業の推進 【市民文化スポーツ局】 【A】	子どもたちや若者が文化芸術に接する機会を拡大するため、学校・地域等における教育普及活動やホール等の文化施設におけるワークショップ等を充実させる。	事業への参加者数：子どもたちや若者を中心にH26年度比2,000人増	H27	3,002人増
			H28	4,763人増

⇒北九州市が誇る文化資源を顕彰し、シビックプライドを醸成するとともに、市内に点在する多くの文化的素材や、さまざまな文化的取組など「文化芸術の街・北九州」を強力に発信

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
文学の街・北九州発信事業 【市民文化スポーツ局】 ※数値目標対象外	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組む。また、小倉都心部に点在する文学的素材や、さまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを検討する。	北九州文学サロン（H28年度末開館）利用者数：39,000人（H29～31年度）	H27	事業計画策定
			H28	H29.3.25 拠点施設「北九州文学サロン」開館 利用者数754人

北九州市漫画ミュージアム普及事業 【市民文化スポーツ局】 【C】	北九州市漫画ミュージアムの常設展示の充実及び企画展・イベント等の実施により漫画文化の普及を図る。	漫画ミュージアム年間入館者数： 10万人（H26年度）⇒ 50万人以上（H27～31年度）	H27	83,161人
			H28	累計183,927人

③都市のコンパクト化の推進と周辺等の交通ネットワークの充実

⇒立地適正化計画に基づく都市のコンパクト化の推進や地域公共交通網形成計画に基づく公共交通網の再構築

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
コンパクトシティ形成に向けた「立地適正化計画」、「地域公共交通網形成計画」の策定 事業終了 【建築都市局】 ※数値目標対象外	コンパクトシティ形成の実現に向け、将来も地域の活力を維持・増進し都市を持続可能なものとするため、都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」を策定する。また、立地適正化計画と連携し、地域にとって望ましい公共交通網のすがたを明らかにする「地域公共交通網形成計画」を一体的に策定する。	「地域公共交通網形成計画」の策定（H28.8） 「立地適正化計画」の策定（H28.9）	H27	素案策定
			H28	計画策定
都市機能整備・居住誘導の推進 【建築都市局】 ※数値目標対象外	「北九州市立地適正化計画」（H28.9月策定）に基づき、商業、文化、医療、公共施設等複合的な都市機能の整備による、小倉駅周辺、城野駅北、折尾、旦過等各地区における魅力的な拠点づくりや、バス路線など地域公共交通の確保・定住促進事業などにより、街なかへの居住の誘導を図る。	居住誘導区域における人口密度： 基準値 130人/ha（H22年） トレンド値 108人/ha（H52年） ⇒目標値 120人/ha（H52年） 【参考】 トレンド値 123人/ha（H31年） ⇒目標値 127人/ha（H31年）	H27	—
			H28	— ※単年度目標なし

環境首都総合交通戦略（地域公共交通網形成計画）の推進 【建築都市局】 ※数値目標対象外	「北九州市環境首都総合交通戦略（北九州市地域公共交通網形成計画）」（H28.8 策定）に基づき、本市での望ましい交通体系を構築するため、既存の公共交通機関を有効活用し、その維持や充実・強化を図る施策を推進する。過度のマイカー利用から地球環境にやさしい公共交通や徒歩・自転車への利用転換を図り、市民の移動手段が確保された交通体系を構築する。	公共交通人口カバー率：	H27	—
		79.5%（H24年度）⇒	H28	—
		80.0%（H32年度）		※目標年度（H32年度）において実績を確認するため
		公共交通分担率：	H27	—
		21.9%（H24年度）⇒	H28	—
		24.0%（H32年度）		※目標年度（H32年度）において実績を確認するため
自家用車 CO2 排出量（H17年度比）：	H27	—		
2.4%削減（H24年度）⇒	H28	—		
6.0%削減（H32年度）		※目標年度（H32年度）において実績を確認するため		

※「居住誘導区域」：居住を誘導し一定の人口密度を維持するエリア

※「基準値」：平成22年国勢調査をもとに算出した値、「トレンド値」：現状の動向のまま進行した場合の値

※「目標値」：計画の遂行により達成を目指す値

⇒市民の「まち」に対する思いや自発的な取組を育むことを支援し、シビックプライドの顕在化を図る。

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
まちづくり団体等に対する支援 【建築都市局】 【B】	地域のまちづくり計画の作成から実施までを総合的に行う民間団体等の活動に対し支援を行う。 （例）副都心黒崎開発推進会議のタウンシップ宣言	団体等に対する助言などの支援件数 ：60件（H27～31年度）	H27	12件
			H28	累計24件

④国内外から人を惹きつける海峡都市圏の形成(関門連携)

⇒「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成推進事業の実施による関門ブランドの構築、関門地域の魅力向上

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I = 重要業績評価指標		
		K P I 実績		
関門地域魅力向上事業(地方創生推進) 【企画調整局】 【A】	下関市と北九州市が連携し、「滞在・宿泊型」観光地としての関門ブランドを構築し、関門らしさの充実やネットワークづくり、プロモーションを実施するとともに、民間活力を導入した新たな観光スポットの整備を目指す。	宿泊者数、日帰り観光客数の増加に伴う消費の増加額： 6,451,100千円	H27	—
			H28	5,590,000千円 (両市観光動態調査より算出)
関門海峡都市・観光まちびらき連携事業(地方創生推進) 【産業経済局】 【A】	関門地域の地理的優位性や多彩な観光資源を活かすため、夜間ライトアップによる景観の向上や関門海峡周遊バスの運行、ビッグデータを活用した観光プロモーション、観光客向け多言語アプリの運営などを通じ、訪日観光客の受入環境を整備する。			
関門連携による国内外映画・テレビドラマ誘致・支援事業(地方創生推進) 【市民文化スポーツ局】 【B】	関門海峡を中心とした北九州市・下関市のロケ地としての魅力等を活用し、国内外の映画・テレビドラマの誘致を行い、ロケツーリズムによるインバウンドの増加を図る。	関門における撮影・ロケハン件数： 9件(H28～31年度)	H27	—
			H28	1件
クルーズ船の誘致(地方創生推進)【再掲】 【港湾空港局】 【A】	受入態勢の強化を図るとともに、国内外のコンベンションへの出展やキーパーソンへの招へい、代理店や船社への情報提供によるクルーズ船寄港の促進及び客船寄港時におけるおもてなしイベント等を展開する。あわせて、中国人観光客等を対象とした周遊ルートの開発を行う。	年間寄港回数： 1～5回(H22～26年度)⇒ 20回(H32年度)	H27	4回
			H28	12回

⇒自然、歴史、文化、産業等の観光資源の発掘、ネットワーク化、パッケージ化

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I 実績	
関門地域の活性化 【企画調整局】 【B】	北九州市と下関市による相互の連絡調整、広域的な課題の調査研究、首長同士の相互理解や、産業拠点の形成、大学間連携の推進等により、関門地域の活性化を図る。	共同 PR ツールの作成 トップ会談 5 回 (H27～31 年度)	H27	1 回
			H28	累計 2 回

⇒北九州都市圏と下関都市圏の連携強化（都市圏を結び交通環境の強化、門司港地区やめかり地区の魅力強化、唐戸地区との周遊ルート強化等）

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I 実績	
都市圏間の交流・連携を支援するネットワークの強化 【建築都市局】 【A】	北九州・下関都市圏を一体として、経済・産業を大きく発展させるため、都市圏間の交流・連携を強化し、この地域のポテンシャルを高めることは不可欠である。 そのため、下関北九州道路の整備を含めたネットワークの強化に向け、官民一体となった取り組みを進める。	早期実現のための調査、要望活動を共同で毎年度実施	H27	1 回
			H28	3 回
門司港レトロ観光推進事業 【産業経済局】 【B】	門司港レトロの知名度を高め、国内外からの集客が可能な質の高い魅力的な観光地として成長させる。また、地元まちづくり団体と協力し官民一体となった観光振興を図る。	関門地域（門司港・下関）の観光客数： 360 万人（H25 年度）⇒ 400 万人（H31 年度）	H27	383 万人
			H28	388 万人
新浜地区の賑わい創出 【港湾空港局】 【D】	新浜地区の土地利用のあり方や施設計画、土地利用規制の見直しなどについて検討し、臨海部再編に寄与する上屋跡地の有効活用を図り、賑わいを創出する。	上屋跡地への観光客： 5,000 人（H31 年度）	H27	1,300 人 (暫定利用)
			H28	2,000 人 (暫定利用)

⑤福岡県北東部地域市町との連携のさらなる強化

⇒「連携中枢都市圏」形成に向けた取組の推進（連携協約締結、都市圏ビジョン策定）

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I実績	
新たな広域連携推進事業 （連携中枢都市圏構想） 【企画調整局】 ※数値目標対象外	近隣市町との協議を踏まえ、連携協約を締結し、連携中枢都市圏の形成を目指す。連携協約には、以下の3つの柱における政策の方向性や役割分担を定め、圏域の活性化を図る。 ○「圏域全体の経済成長のけん引」 ・戦略的な観光施策 ・地域資源を活用した地域経済の裾野拡大 など ○「高次の都市機能の集積・強化」 ・医療サービスの提供 ・中心拠点の整備、広域的公共交通網の構築 など ○「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」 ・介護・福祉などの生活機能 ・地域公共交通・ICT整備 の結びつきやネットワーク強化など	連携中枢都市圏の形成 (H28.4.18)	H27	—
			H28	16市町と連携協約締結（圏域形成済）

⇒連携中枢都市圏構想の推進

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I実績	
新たな広域連携推進事業 【企画調整局】 【C】	平成28年4月に近隣16市町と連携中枢都市圏「北九州都市圏」を形成。圏域の将来像や具体的な連携事業を掲載する「都市圏ビジョン」の着実な推進により圏域人口の急速な減少抑制を目指す。	都市圏ビジョン掲載の事業のうち、事業を実施した割合：69%（H28年度）⇒90%（H31年度）	H27	—
			H28	75%

⇒連携中枢都市圏「北九州都市圏域」による『きりん』の輝き推進事業の実施による「北九州都市圏域」を形成する近隣16市町と連携、圏域の包括的な魅力向上

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I =重要業績評価指標	K P I 実績	
北九州都市圏域連携事業 (地方創生推進) 【企画調整局】 【一】	北九州市と近隣16市町で形成した連携中枢都市圏「北九州都市圏域」のブランディングや、主に首都圏でのプロモーションを行う。	北九州都市圏域内への観光客数：3,658万人(H31年度)	H27	—
			H28	調査中
		北九州都市圏域内の宿泊者数：178.6万人(H31年度)	H27	—
			H28	調査中
北九州空港を利用した「きりん」エリアの魅力発信事業(地方創生推進) 【港湾空港局】 【一】	北九州空港を基点とした北九州都市圏域の魅力を発信するため、周遊ルートの開発、プロモーション、ファムツアー(旅行業界・メディア業界等の関係者を対象にした現地体験ツアー)を実施する。			
世界遺産魅力発信事業(地方創生推進) 【企画調整局】 【産業経済局】 【一】	平成27年7月に世界遺産登録された官営八幡製鐵所関連施設について、旧本事務所眺望スペースの運営等を通じた理解増進・情報発信活動を実施する。また、来訪者受入体制強化のため、資産紹介映像制作や説明員の充実を図るとともに、市外からの観光客誘致のための、ツール制作、周遊観光ルート構築を行い、ローカル・ブランディングの推進を図る。			
環境ミュージアム展示改修事業(地方創生推進) 【環境局】 【B】	環境ミュージアムの展示施設等を改修することにより、世界遺産等との回遊性を高め、にぎわいを創出するとともに、多くの市民等から愛される魅力的な環境ミュージアムを目指す。	環境ミュージアム利用者数：13.1万人(H27年度)⇒14万人(H31年度)	H27	131,092人
			H28	131,690人

若戸大橋ライトアップによる北九州都市圏域魅力向上事業（地方創生推進） 【産業経済局】 【D】	「関門海峡都市」と連携した夜景観光を促進するため、周遊観光の拠点のひとつである若戸大橋のライトアップの整備を行い、北九州都市圏域での周遊観光の促進を図る。	夜景観賞クルーズ・ツアー等の夜景観光客数： 7,000人(H27年度)⇒ 13,000人(H31年度)	H27	7,000人
			H28	6,300人

⇒東九州自動車道全線開通を見据えた集客促進事業の推進

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
沿線自治体との連携推進 【企画調整局】 【B】	東九州自動車道沿線自治体（福岡県、大分県、宮崎県内の25市町）との連携を図り、集客促進事業を推進する。	集客イベントの毎年度開催	H27	1回
			H28	1回

⇒地域ブランド育成に向けた広域連携のさらなる推進

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
広域連携推進事業 【企画調整局】 【B】	福岡県北東部地域市町との地域ブランド育成に向けた連携を推進する。	ブランド構築のための推進事業（イベント等）の共同を毎年度実施	H27	1回
			H28	1回

⑥人口減少等を踏まえた都市のリノベーションの推進

⇒空き家等対策の推進に関する特別措置法に基づく総合的な空き家対策

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I =重要業績評価指標	K P I 実績	
空き家等対策の推進 【建築都市局】 【A】	市民が快適に暮らせる安全で安心な居住環境の実現に向けて、本市の「空き家等対策計画」及び「空き家の適切な管理等に関する条例」に基づき、「一定の基準を満たす老朽空き家等に対する除却費用の一部補助」、「空き家等対策の推進に係る啓発等」などに取り組み、空き家等対策の強化を図る。	老朽空き家等除却促進事業の利用による除却戸数： 202戸（H26年度）⇒ 880戸（H27～31年度）	H27	394戸
			H28	累計717戸
北九州市空き家バンク 【建築都市局】 【A】	人口減少に伴い増加傾向にある空き家に対し、既存ストックの有効活用、定住促進、老朽危険家屋化の防止等を目的に、これまで売買や賃貸市場に出ていなかった使える空き家を掘り起こし、その情報を市内外に向け発信することで、空き家の利活用や円滑な流通を促進し、中古住宅市場の流通促進等の市場環境整備を行う。	登録物件数： 50件（H26年度）⇒ 100件（H27～31年度）	H27	52件
			H28	累計107件
		成約物件数： 6件（H26年度）⇒ 80件（H27～31年度）	H27	40件
			H28	累計71件

⇒都心の遊休資産をリノベーションなどの手法を活用した有効利用

事業名等	概要	K P I (平成31年度) ※K P I =重要業績評価指標	K P I 実績	
リノベーションまちづくり推進事業【再掲】 【産業経済局】 【B】	小倉都心部の遊休不動産をリノベーションの手法を活用して再生し、都市型ビジネスを集積する取組を進めてきた。今後は、小倉都心部に限らず、他地区でリノベーションまちづくりを実践するワークショップなどを開催し、雇用の創出並びに街なかのにぎわいづくりを推進する。	新規雇用者数： 122人（H26年度）⇒ 300人以上（H27～31年度）	H27	60人
			H28	累計142人

小倉駅新幹線口魅力創出事業 【港湾空港局】 【D】	都心における唯一のウォーターフロントである小倉駅新幹線口地区において、緑地の整備を行うとともに、民間活力を導入して、賑わい施設や魅力的な居住空間の整備を行うことで、当該地区の賑わいを創出する。	港湾緑地の訪問者： 20,000人(H31年度)	H27	0人
			H28	9,000人 (想定)

⇒公共施設のマネジメント

事業名等	概要	KPI (平成31年度) ※KPI=重要業績評価指標	KPI実績	
公共施設マネジメント推進事業 【事業終了】 【企画調整局】 ※数値目標対象外	本市の公共施設マネジメント方針に基づき、公共施設に関する将来的な財政負担を軽減するための取組を進める。	施設分野別実行計画、モデルプロジェクト地域の公共施設再配置計画の策定： (H27年度)	H27	施設分野別実行計画、モデルプロジェクト地域の公共施設再配置計画の策定
			H28	—
公共施設マネジメント推進事業 【企画調整局】 ※数値目標対象外	本市の公共施設マネジメント実行計画に基づき、公共施設に関する将来的な財政負担を軽減するための取組を進める。 具体的には、施設分野ごとのマネジメント計画による公共施設の集約等を推進する。 加えて、老朽化した公共施設が点在する門司港地域・大里地域において、公共施設を集約し、複合化・多機能化することで市民サービスの効率化及び地域の活性化等を図る。	5ヶ年行動計画に基づく公共施設の集約等の推進 (H28年度以降毎年度) 門司港地域 ・複合公共施設の整備の推進 (H33年度整備予定) 大里地域 ・居住ゾーンの公募実施(H30年度)・旧門司競輪場跡地の公園暫定整備(H31年度)	H27	—
			H28	・5ヶ年行動計画策定 PDCAサイクルによる公共施設の集約等の推進 ・モデルプロジェクトの推進 市民説明会等の実施、有識者等からなる懇話会の設置 【門司港地域】 民間事業者ヒアリング、事業スキームの検討など 【大里地域】 門司競輪場跡地の土地利用方針検討、民間事業者ヒアリング

公共施設長寿命化検討事業 事業終了 【建築都市局】 ※数値目標対象外	行財政改革大綱の内容を踏まえた上で、市有建築物の長寿命化に関する効果検証等を行う。	長寿命化の効果検証報告書の作成：(H27年度)	H27	報告書の作成
			H28	—
公共施設予防保全マネジメント推進事業 【建築都市局】 ※数値目標対象外	H27年度に実施した公共施設長寿命化の効果検証及び公共施設マネジメント実行計画を踏まえ、建築物の計画的な予防保全の実施とともにコスト縮減等を目指すための取り組みの基本方針となる市有建築物長寿命化計画を策定した。 H29年度は、施設機能維持に不可欠な特定重要設備について、現地調査を行い、劣化状況を診断・評価し、特定重要設備の予防保全計画の策定及び長寿命化計画の充実を図る。	北九州市市有建築物長寿命化計画の策定：(H28年度) 特定重要設備の予防保全計画の策定、長寿命化計画の充実(H29年度)	H27	—
			H28	計画策定

⇒既存ストックの機能向上・有効活用

事業名等	概要	KPI (平成31年度) ※KPI=重要業績評価指標	KPI実績	
住まい向上リフォーム促進事業 事業終了 【建築都市局】 【B】	良質な住宅ストックの形成と活用を促進するため、既存住宅において、エコや子育て、高齢化への対応、安全・安心に資するリフォーム工事に対し、その費用の一部を補助する。	エコや高齢化対応、安全・安心にかかるリフォーム工事の実施件数： 2,033件(H26年度) ⇒ 4,200件(H27～28年度)	H27	2,188件
			H28	累計4,380件
住宅リフォームの促進 【建築都市局】 ※数値目標対象外	国や県、民間金融機関などと連携し、様々なリフォーム支援施策が活用されるよう周知を図り、良質な住宅ストックの形成と活用を促進する。	説明会等での周知： 3回/年(H29～31年度)	H27	—
			H28	—

公社賃貸住宅のリノベーションなどによる有効活用 (北九州市住宅供給公社) 【建築都市局】 【B】	街なかの市住宅供給公社賃貸住宅において、若年・子育て世代のニーズに対応するリノベーションなどを行う。	H31年度までに3団地について事業着手	H27	計画策定
			H28	1団地

⇒市民との協働による公共インフラの点検

事業名等	概要	KPI (平成31年度) ※KPI=重要業績評価指標	KPI実績	
公共インフラサポーター支援事業 【建設局】 ※数値目標対象外	公共インフラ(道路・公園・河川)の清掃や点検、花壇等の手入れを行うボランティア活動に対し、活動の表彰制度導入や地域の見守り活動に寄与するスタッフジャンパーの支給、リアルタイムな情報発信の場の提供など、ボランティア活動の支援を充実させることで、新たなボランティア(企業・若者等)の参加を促進するとともに、魅力的なひとづくりやまちづくりを創造する。	ボランティア団体の新規登録：15団体以上 (H27～31年度)	H27	—
			H28	ボランティア活動支援充実に向けた具体策の検討を開始

⑦住民による地域防災の充実

⇒消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律に基づく、消防団の装備の充実

事業名等	概要	KPI (平成31年度) ※KPI=重要業績評価指標	KPI実績	
消防団資機材等の充実強化 【消防局】 【B】	消防団の装備を改善することにより、若者が魅力を感じる消防団づくりを推進し、入団促進と機能強化を図る。	消防団員の充足率： 94.0% (H27年度) ⇒ 96.0% (H31年度)	H27	93.4%
			H28	95.9%

⑧シビックプライド(北九州市への愛着・自信・誇りなど)の醸成

⇒本市の誇れる資源(人、モノ、文化、歴史など)の積極的なPRの実施

事業名等	概要	KPI(平成31年度) ※KPI=重要業績評価指標	KPI実績	
観光プロモーション推進事業等【再掲】 【産業経済局】 【A】	旅行会社へのセールス、観光キャンペーンなどによるプロモーションの実施や観光ウェブサイトを活用した継続的な情報発信を行い、本市の観光地としての認知度の向上とさらなる観光客の誘客を図る。また、本市公営競技施設を観光資源としてPRすることを検討する。	観光客数： 2,242万人(H23年次)⇒ 2,460万人(H31年次)	H27	2571.4万人
			H28	2543.3万人
		うち宿泊者数： 119万人(H23年次)⇒ 130万人(H31年次)	H27	170万人
			H28	177.5万人
北九州の食の魅力創造・発信事業 【産業経済局】 【一】	本市を代表する食の魅力の創造や市内外への情報発信に取り組み、食による産業振興、食によるにぎわい創出を図る。	北九州市で生産される食材を食べたことのある人の割合： 89.7%(H27年度)⇒ 80%以上を維持(H29年度)	H27	89.7%
			H28	市政モニター等、それに準ずるアンケートを行っていないため不明。
		北九州市の主なご当地グルメを食べたことのある人の割合： 84.6%(H27年度)⇒ 80%以上を維持(H29年度)	H27	84.6%
			H28	市政モニター等、それに準ずるアンケートを行っていないため不明。
北九州市ミュージアム構想推進事業 【企画調整局】 【C】	まち全体を屋根のないミュージアムに見立て、市内各地の様々な地域資源を展示品にたとえ、市民の手でこれらを発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで地域資源を磨き上げ、効率的な情報発信を展開する。	本市への好感度・誇りに関するアンケート調査において「本市が好きだ」と答えた市民の割合： 78.5%(H25年度)⇒ 90%以上(H31年度)	H27	83.5%
			H28	84.8%
北九州マラソン開催事業 【再掲】 【市民文化スポーツ局】 ※数値目標対象外	1万人規模の北九州マラソンの開催に併せ、全国から参加するランナー等に北九州市の食でおもてなしするとともに、コース沿いに位置する観光資源を通して本市の魅力を紹介する。	インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング：1位	H27	5位
			H28	9位

大規模国際大会等誘致事業 【再掲】 【市民文化スポーツ局】 【A】	戦略的な誘致プロモーションの展開や、官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動、及びスポーツ施設の備品整備により、大規模国際大会のキャンプ地誘致等を行い、本市のPRやシビックプライドの醸成、トップクラスのアスリート等とのふれあいを通じた人材育成を図る。	国際大会や全国大会等の誘致：15件以上（H27～31年度）	H27	4件
			H28	累計8件

⇒市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組の推進

事業名等	概要	KPI（平成31年度） ※KPI＝重要業績評価指標	KPI実績	
スクールヘルパーの配置 【教育委員会】 【C】	保護者や地域の方などを「スクールヘルパー」として学校に登録し、様々な知識や経験を生かしながら、学校教育の場においてボランティアとして教育活動支援を行う。	122,056人（H25年度）⇒ 年間120,000人程度を維持 （H30年度）	H27	124,804人
			H28	116,813人
学校支援地域本部事業 【教育委員会】 【B】	運営委員会、地域コーディネーター、学校支援ボランティア等で構成される「学校支援地域本部」を設置し、地域コーディネーターが学校のニーズに応じたボランティアを地域等から発掘し、活用につなげることで、地域の協力のもと学校の教育活動を支援する体制づくりを推進する。	42校（H26年度）⇒ 全中学校区に設置（H30年度）	H27	47校
			H28	52校
経済界との連携による学校支援事業 【教育委員会】 【B】	企業がもつ人材や経営のノウハウなどを学校教育に生かすため、地元企業を中心とした「北九州の企業人による小学校応援団」と連携しながら、学校支援を行う仕組みづくりを実施する。	対象小学校40校（H26年度） ⇒全小学校（H30年度）	H27	70校
			H28	100校
夢・スポーツ振興事業 【市民文化スポーツ局】 【A】	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、国際・全国大会で活躍する選手を育成するため選手個々の能力を高める事業を実施する。	教室・強化講習会等実施： 毎年度5種目以上 （H31年度まで）	H27	8種目
			H28	8種目

⇒本市ゆかりの先人や伝統文化など、地元の誇りとする文化を継承する取組の推進

事業名等	概要	K P I（平成31年度） ※K P I＝重要業績評価指標	K P I 実績	
文学の街・北九州発信事業 【再掲】 【市民文化スポーツ局】 ※数値目標対象外	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組む。また、小倉都心部に点在する文学的素材や、さまざまな文化資源・文化的取り組みをつなげる仕組みづくりを検討する。	北九州文学サロン（H28年度未開館）利用者数：39,000人（H29～31年度）	H27	事業計画策定
発達段階に応じたキャリア教育の展開 【再掲】 【教育委員会】 【B】	学校生活から社会生活へ円滑に移行できるように、小・中学校で連携しながら児童生徒の発達の段階に応じたキャリア発達を支援し、学校教育活動全体を通して児童生徒が社会的・職業的自立に向けて必要とされる基礎的・汎用的能力を育成する。また、地元企業等を知ってもらうための職場体験等の取り組みを充実していく。	地元企業等を知る体験活動（職場見学、職場体験）を全小中学校で実施（小学校131校、中学校62校）	H27	小：131校 中：62校
環境教育推進事業 【教育委員会】 【B】	環境未来都市としての北九州市独自性を活かし、体験的な学習を通して子どもたちの環境に対する認識を深めるとともに、環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図る。また、成果等を広く紹介し、学校のみならず、家庭や地域の人々の環境に対する関心や意識を高め、環境保全への実践的な活動が市民全体に広まることを目指す。	体験的な環境教育を全小学校で実施（小学校131校※安屋分校除く）	H27	全小学校(130校)
			H28	全小学校(130校)

⇒持続可能なより良いまちを目指して、多様な主体が協働し、資源を活かした
地域課題解決できる人を育む ESD の普及促進

事業名等	概要	K P I（平成31年度）		
		※K P I＝重要業績評価指標		
ESD 活動支援 事業 【環境局】 【D】	「世界の環境首都」を目指す 本市において、その基盤となる 持続可能な社会づくりを担 う人づくりを進めるため、国 連など世界規模で進められて いる ESD を推進する。	ESD の認知度	H27	5.5%
		5.5%（H25年度）⇒ 12.0%（H31年度）	H28	5.9%